

### 子どもの本だな 67

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### ももたろう

松居 直 文 赤羽 末吉 画  
(福音館書店)

桃から生まれたももたろうは、ぐんぐん大きくなり、力持ちで何ともかしこい子に育ちました。ある日、村々で悪きをする鬼のことを聞き、鬼退治に出かけました。途中、犬と猿ときじがお伴につき、山越え谷越え、海を渡って鬼が島に着きました。日本一のきびだんごを食べて何百万力のももたろうたちは、かかってくる鬼たちをかたっぱしからやっつけ、お姫様を助け出しました。

有名な昔話を、落ち着いた色遣いで仕上げた絵本。微妙な濃淡を使い分けた絵は、昔話の雰囲気合っています。リズム感ある文章は耳に心地よく、力強いももたろうの姿をよく伝えています。読んでもらえば3～4歳から楽しめるでしょう。  
(池田)

#### トンボソのおひめさま

バーボー、ホーンヤンスキー 文 石井 桃子 訳  
(岩波書店)

王子ジャンは、王さまの知恵のリンゴを盗んだ者を捕まえようと見張っていました。夜中、どろぼうはジャンの手をすりぬけて逃げてしまい、手には金の不死鳥の羽が残っていました。王さまに不死鳥を追いかけよと命じられたジャンは、ガラスの山の絶壁に落とし戸を見つけ、そこから洞穴の中に入っていました。すると大きな角のある一角獣が勝負を挑んできましたが、勢い余って角が壁にめり込みジャンの勝ち。次に現れたのは大きなライオン、七つ首の大蛇。ジャンは2頭にも勝ち洞穴を出ると、そこは金の不死鳥の住むサルタン大王の国でした。魔法を使うサルタン大王はジャンに3回の勝負を持ち掛けました。「金の不死鳥」  
300年前、フランスからカナダに移り住んだ人々の昔話集。故国フランスの気質を受け継いで、何事にもめげず、前向きで楽しいお話は、読んで聞いても心に残ります。読んでもらえば5～6歳から楽しめます。  
(西村)

5月	6月	5・6月の移動図書館（いずれも木曜日です）				
16日	13日	塚森 地域内 10:30～10:50	沖代 地域内 11:00～11:20	福地(三反長) 地域内 14:30～14:50	米田 公会堂 15:00～15:20	竹広南 公民館 15:30～15:50
23日	20日			原池団地 公民館 15:00～15:20	山田 掲示板前 15:30～15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00～16:30
30日	27日	広坂 公民館 10:30～10:50	上太田 公民館 11:00～11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30～15:50	吉福 公民館 16:00～16:30

#### <お知らせ>

##### \*絵本の交換会\*

家でもう読まなくなった絵本はありますか？図書館に持ってきてくだされば他の方の絵本と交換できます。

- ・日時：6月8日(土)  
10:30～16:00
  - ・場所：図書館読書会室
- ※傷みのひどい本、落書きあり、漫画などは交換できません。

##### \*青空リサイクル\*

5月11日(土) 10:30～15:00

- ・場所：図書館玄関前
- ※リサイクル用の本は随時補充します。  
※雨天の場合は、5月12日に延期

『ウイルスの意味論 生命の定義を超えた存在』 山内 一也 著

みすず書房 239頁 2018年12月刊 2,800円 (請求記号) 465.8

本書は、半世紀以上にわたってウイルスの研究に携わってきた著者が、ウイルスの多様な生態を紹介したものである。ウイルスは単なる病気の原因ではない。ウイルスをひとつの生命体と捉えたとき、生物とは異なる生命活動が見られる。例えば生物は一度死んでしまえば二度と生き返ることはない。ところが、死んでから生き返る現象がウイルスには見られた。「多重感染再活性化」と呼ばれるこの現象は、傷ついたウイルス達が各々の損傷していない部位を再利用して新たに生まれ変わるといふ仕組みである。また、近年の研究によってウイルスの生息域が非常に広大であり、通常の生物では考えられない生命力をもつ存在であることが分かってきた。一般的にウイルスは熱や紫外線、薬品に弱く、特定の環境下でなければ活動を停止させてしまう。ところがアーキアウイルスと呼ばれるウイルスは、高熱や強酸性、強塩濃度といった極限環境においても生命活動を維持させている。さらにウイルスには、他の生物のDNAに自身の情報を書き込み、ゲノムに組み込まれて子孫に遺伝していく「内在性レトロウイルス」というものも存在し、ヒトゲノムの約9%がこのウイルスによって占められている。このウイルスの中には、胎児を母親のリンパ球から守る膜を形成するという役割を持つものもある。人の誕生を守りながら、DNAの中で情報として生き続けているのである。

ウイルスの姿を視認できなかった時代、病気などの痕跡を辿ることでウイルスへの知見を深めてきた。その後、電子顕微鏡の登場によってウイルスの姿を捉えられるようになり、近年はウイルスの遺伝子の検出が可能になった。こうしたウイルス学の進歩によって、ウイルスの生態が少しずつ明らかになされてきた。それと同時に、生命の定義を超越したその生態は、人類に新しい生命観を提唱していると言える。

(光藤)

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	<del>7</del>	<del>8</del>	<del>9</del>	10	11
12	13	<del>14</del>	15	16	17	18
19	20	<del>21</del>	22	23	24	25
26	27	<del>28</del>	29	30	31	

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	17	<del>18</del>	19	20	21	22
23	24	<del>25</del>	26	27	28	29
30						

えほん・おはなしの本をよんで、スタンプラリーをしよう☆

問題に答えてスタンプを集めよう！たくさん集まったらプレゼントがもらえるよ！

※子ども対象のスタンプラリーです。期間は6月30日(日)までです。

- \* カレンダーの×印は休館日
- \*  は館内整理日  
返却のみ受付(10:00~17:00)
- \* 開館時間は10:00~18:00  
金曜日は20:00まで開館

地下水

毎朝、通勤中の木や草の若い緑がどんどん生い茂っていく様子が清々しい気分になる。図書館に着くと、クスノキが落ちた葉からいい香りが立ち上る。踏みしめたときの乾いた音も気持ちいい。

敷地内に並ぶクスノキや他の木の根元にはあまり目を向けたくない。先日、除草したのだが、表面をむしり取っただけなので、早々に伸びてくるにちがいないから。ほかの部分は手つかずのまま、日々、緑が濃くなっているような気がする。緑も出てくる場所により迷惑者。「草対策にヤギを飼いましょう」と提案すると、毎日周辺の清掃に出てくれる職員のひとりが賛成してくれた。

キャベツの葉を1枚1枚はがしているときに、中からイモムシが出てくると驚き、驚かされたことに怒りもするが、好物の食べ物のなかですごせるなんて羨ましくもある。おいしい饅頭を食べるとき、アリになって中にもぐりこみたいものだ、と思うことがよくある。この際、草がおいしいのなら、ヤギにでもなりたい。青々とした草、みずみずしい香りの草が人間にとって格別においしく改良されたら、図書館帰りに、誰もが引っこ抜いてくれるのでは、と除草ヤギに続く、空しい雑草対策を考えている。

(竹内)

